

# 社長談 社放

# 経営統合で新しい社会的価値を創造

DNホールディングス  
新井伸博社長(上)



## 橋梁 調査から設計まで 災害調査でも強みを発揮

DNホールディングス(新井伸博社長)とダイヤコンサルタント(野口泰彦社長)が今年7月、2年後の合併を見据えて設立した共同持株会社「DNホールディングス」。そのグループを率いる新井社長が、事業戦略、橋梁分野の拡大策などを語った。

「グループが目指す分野、事業について。新井伸博・DNホールディングス社長、グループの第1期中期経営計画で、事業会社の大日本コンサルタント(以下、大日本C)とダイヤコンサルタント(以下、ダイヤC)の事業計画、経営方針・戦略などを示した。2社は、2年後の経営統合を予定している。グループは、従業員数約1200人、売上高288億円の規模で発足した。売上高は1期目310億円(営業利益率5.5%)、3期目340億円(同7.1%)を目標に掲げた。経営方針は、橋梁を中

心とした構造物の設計・計画に強い大日本Cと、地質・地盤の調査に強いダイヤCの経営資源を相互に活用して、シナジー(相乗効果)の創出を最優先する。また、シナジーの化学変化により新しい事業へ挑戦して社会貢献することと、グループ全体の魅力や企業価値を高めていく。

グループで注力するのは、新エネルギーや民間事業、コンセッションなどの官公庁の受注、委託から脱却(脱請負)する分野・領域だ。すなわち、社会課題を解決する施策、戦略が、経済的価値を高め、新しい社会的価値を創造し

①再生可能エネルギーの旗手として注目の洋上風力発電のタワー基礎に着目して、日本特有の台風・波浪・地震の同時作用時刻歴応答解析による設計技術の開発(実験を含む)を推進する。

②大日本Cが得意とする橋梁の長寿命化修繕計画での実績を基に、次世代の社会資本整備、まちづくりの地盤情報解析技術や事前防災技術を組み入れ、スーパーシティ、

③ダイヤCが持つ電力や民間事業のネットワークを活用して、水素やバ

④ダイヤCと大日本Cの得意技術を融合することで、軟弱地盤対策や道路・構造物設計や、活断層の評価技術を取り入れた橋梁耐震設計をシームレスに効率的に遂行することで他社との差別化を図る

⑤近年頻発する自然災害への取組を強化し、脱炭素社会の実現に向けた活動の幅を拡げる

⑥海外展開として、ドローンによる空中物理探査技術と軟弱地盤&地すべり対策技術とを組み合わせて、災害復旧や路線選定などに技術提案し、海外事業を創出する



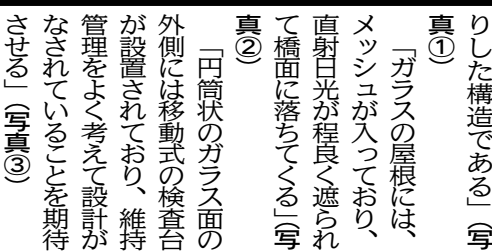
熊本県上天草市と宇城市を結ぶ自動車専用橋・天城橋(てんじょうきょう)。橋長463mの鋼PC複合中落式アーチ橋だ。鋼箱製のアーチリブを支間長350m(ソリッドリブ方式では国内最長)で両端をリブ固定支持し、補剛桁は中央径間を鋼箱桁、側径間をPC箱桁で構成している。設計は大日本コンサルタントで、管理技術者は新井社長。1966年完成の天草5橋の1号橋・天門橋に並んで架けられることから、「周辺に調和しながらも40数年の技術的進展が感じられる橋」をコンセプトとした。(写真は同社提供)

⑦「ガラスの屋根には、直射日光が程良く遮られて橋面に落ちてくる」写真②

⑧「下から見た桁は、底面が円弧状で両側にブラケットを設けた、すっきりとした構造である」写真①

⑨「ガラスの屋根には、直射日光が程良く遮られて橋面に落ちてくる」写真②

⑩「円筒状のガラス面の外側には移動式の検査台が設置されており、維持管理をよく考えて設計がなされていることを期待させる」写真③



者、減ることはあっても増えることは無いだろう。事業促進PPPやコンストラクション・マネジメント(CM)などの新しい発注形態が増えていくことは避けられない。

これまで受注産業と言われていた建設コンサルタントも、自ら課題を発見して、自ら解決する方向へ変化していくことは自然の成り行きだろう。

今までの課題発見力や企画提案力が求められるようになる。業界全体での仕事の総量は変わらないとしても、仕事の内容が大きく変わり、優れた技術をもって提案できる会社のみが生き残る時代になると考えている。

⑪この橋の事業主体は横浜市で、構造設計は大日本コンサルタント。施工法を活用

⑫「設計業務はデザインコンペに優勝したことにより獲得した」

⑬「空や水を映しながら水面上に浮かぶ透明なチューブをイメージし、さわやかな風を受けるとともに風から歩行者を守る工夫を流線型断面のフォルムに埋込みました」

⑭「PI橋脚に当社特許技術の複合PCウエル工法を活用」

⑮「空や水を映しながら水面上に浮かぶ透明なチューブをイメージし、さわやかな風を受けるとともに風から歩行者を守る工夫を流線型断面のフォルムに埋込みました」

⑯「PI橋脚に当社特許技術の複合PCウエル工法を活用」

⑰「空や水を映しながら水面上に浮かぶ透明なチューブをイメージし、さわやかな風を受けるとともに風から歩行者を守る工夫を流線型断面のフォルムに埋込みました」

⑱「PI橋脚に当社特許技術の複合PCウエル工法を活用」

⑲「空や水を映しながら水面上に浮かぶ透明なチューブをイメージし、さわやかな風を受けるとともに風から歩行者を守る工夫を流線型断面のフォルムに埋込みました」

⑳「PI橋脚に当社特許技術の複合PCウエル工法を活用」

⑳「PI橋脚に当社特許技術の複合PCウエル工法を活用」

㉑「空や水を映しながら水面上に浮かぶ透明なチューブをイメージし、さわやかな風を受けるとともに風から歩行者を守る工夫を流線型断面のフォルムに埋込みました」

㉒「PI橋脚に当社特許技術の複合PCウエル工法を活用」

㉓「空や水を映しながら水面上に浮かぶ透明なチューブをイメージし、さわやかな風を受けるとともに風から歩行者を守る工夫を流線型断面のフォルムに埋込みました」

㉔「PI橋脚に当社特許技術の複合PCウエル工法を活用」